

動詞重疊型に関する通時的研究(六)

——《儒林外史》を中心に——

大 島 吉 郎

A Diachronic Study of the V - V Form(VI)

Yoshiro Oshima

内容提要

本文主要讨论清代小说《儒林外史》和《照世杯》里的动词重叠式。

据考证,《儒林外史》写成于清乾隆 14 年以前。但目前我们能看到的最早的版本就是嘉庆年间写刻的《卧闲草堂儒林外史》56 回本。《儒林外史》还有一部增补本,就是《增补齐省堂儒林外史》60 回本。这两部资料里动词重叠式的结构比较简单,没有《醒世姻缘传》以及明代资料那么复杂。

《照世杯》一共 4 卷,是酌元亭主人编。酌元亭主人,姓氏不详。据考证,本书编于清代顺治末至康熙初,地点在杭州。作品里“VV”少,“V-V”居多。这也许反映早期白话的特征,或是在南方的特点。

[目 次]

0. はじめに	1.3.3 VVO
1. 《儒林外史》	1.3.4 V了VO
1. 1 单音節動詞	1.3.5 V了一V
1.1.1 VV	1.3.6 V-VO
1.1.2 V了V	1.3.7 二音節動詞
1.1.3 V-V	2. 《照世杯》
1.1.4 V了一V	2. 1 单音節動詞
1.1.5 VVO	2.1.1 VV
1.1.6 V-VO	2.1.2 VVO
1.1.7 V了一VO	2.1.3 V-V
1.1.8 VO-V	2.1.4 V了一V

1. 2 二音節動詞	2.1.5 V-VO
1.2.1 VV	2. 2 二音節動詞
1.2.2 V-V	2.2.1 V-V
1.2.3 VVO	2.2.2 VO-V
1.2.4 V-VO	3. おわりに
1. 3 《増補齊省堂儒林外史》増補部分	注
1.3.1 VV	参考文献
1.3.2 V了V	引用書目

0. はじめに

小稿では、清代の小説《儒林外史》と《照世杯》の動詞重畳型について、用例の整理と分析を試みる。

《儒林外史》の執筆は乾隆14年(1749)以前であると推定されているが、現在目撃しうる最も早期のテキストは《臥閑草堂儒林外史》56回本であり、嘉慶8年(1803)刊。これまで、《儒林外史》の動詞重畳型についてのトータルな報告は行われていないようである。《儒林外史》には、これとは別に《増補齊省堂儒林外史》60回本があり、小稿では併せて《増補齊省堂儒林外史》増補部分の用例についても検討を加える。

《照世杯》は4巻4回、酌元亭主人撰。康熙年間の写刻本が現存する。《儒林外史》より早い時期の刊行であり、用例を検討する意味があるものと考えられる。

1. 《儒林外史》

《臥閑草堂儒林外史》(以下《儒》と略称)における動詞重畳型の特徴をまとめると、以下のようになる。

一 単音節動詞

- 1) “V了V”型が見られない。
- 2) “兒”接辞を伴う例が見られない。
- 3) 嘗試型が見られない。
- 4) “VV”型に対して“V-V”型がやや優勢である。
- 5) “VVO”型が“VO-V”型にたいして優勢である。
- 6) 用いられる形式が少ない。

二 二音節動詞

- 1) “V-VO”型が見られる。
- 2) “兒”接辞を伴う例が見られない。

小稿では《儒》をテキストとして用い、句読については、上海古籍出版社1984年刊《儒林外史》に拠ることとする。

1. 1 単音節動詞

《儒》に現われる単音節動詞重畳形式のタイプは、小稿のこれまでの調査資料と比較して極めてシンプルであり、よく整理されている印象を受ける。また、“VV”型と“V-V”型とでは、意味の上で差異を認めうることから、単純な比較はふさわしくないが、用例数の分布を概観してみることにはしたい。

VV 167例、 V-V 53例、 V了-V 12例
VV 167 : V(了)-V 65 (約28%)

“VV”型の優勢が窺われる。

次に、賓語の現われる位置という点から両者を対比して見ることにしたい。

VVO 69例、 V-VO 32例、 V了-VO 3例、 VO-V 13例
VVO 69 : V(了)-VO 35 : VO-V 13

賓語を伴う場合、“VV”型と“V-V”型は69:48で、ほぼ拮抗する状態にあり、“VV”型が優位にあるわけではない。しかし、賓語が後置されるか、それとも間にはさまれるかでは、後置タイプが104:13で優位に立つ状況が明らかとなる。

1.1.1 VV

全167例、動詞の種類は30。

——比、吃、穿、戳、抖、访、换、会、讲、嚼、拘、看、念、扫、试、说、谈、听、玩、顽、
望、想、写、谢、学、用、游、走、坐、做

“走”48例、“坐”28例、“看”26例、“谈”17例、“顽”14例と、五つの動詞で全用例の大部分を占める。用例全体に共通するのは、会話文中での使用が多い点(約75%)である。例えば、

又叫:“诸位都来看看,这琉璃灯内,只得半琉璃油!”(02,01b,06)

行主人指道:“这是天字号了,你自进去看看。”(02,16b,04)

内中一人问申祥甫道:“你亲家今日在那里?何不来陪先生坐坐?”(02,8b,09)

何美之道:“…。今日无事,且到庄上去坐坐。…”(04,03b,06)

一日,他姊丈金有余来看他,劝道:“…。你不如同我们去走走。…”(02,15b,10)

只听得后边一个人叫道:“慧老爷,为甚么这些时不到庄上来走走?”(04,03a,08)

严贡生请二位老先生上席,斟酒奉过来说道:“…。故此备个粗碟,就在此处谈谈,休嫌轻慢。”(04,09b,03)

严致和吩咐小厮去说:“…。今日一者请吃酒,二者奶奶要同舅爷们谈谈。”(05,06b,08)

牛浦道:“我在家有甚事,不如也同你去顽顽。”(23,1b,05)

季苇萧道：‘若回来无事，到扬州来顽顽。…’ (27,14b,07)

“谢谢”の例も見えるが、応対語としての用法ではない。例えば、

夙四老爹道：‘明日仍旧穿了公服到这两家谢谢去。’ (50,12b,01)

否定詞を伴う例、“把”字句の述部に用いられる例、また連用される例も見られない。

1.1.2 V了V

《金瓶梅詞話》、《醒世姻縁傳》に見られたが、《儒》に用例は表われず、また、現代語との隔たりも感じさせる(注1)。後述するように、“V了一V”が代替しているのは考えにくい。また、“V了又V”の例も9例見えるが、“V了V”と等価であるとはいえない。例えば、

看了又看 (01,07b,03)

哭了又哭 (03,01b,09) (33,09a,05)

谢了又谢 (05,17a,06) (07,16b,01) (29,04b,04) (52,15b,09)

读了又读 (40,08a,10)

拉了又拉 (50,12a,10)

“V了又V”が“V了V”と異なるのは、ちがう動詞を組み合わせて動作、行為の反復を表わすことができる点にある。例えば、

赵氏号天大哭，哭了又骂，骂了又哭，足足闹了一夜。(06,15a,09)

数了又哭，哭了又数，捶胸跌脚，号做一片。(06,16a,08)

1.1.3 V—V

全53例、動詞の種類は39。

——裱、别、猜、参、查、揆、传、读、兑、估、归、滚、画、会、卷、看、考、擄、摸、捏、陪、批、去、认、升、试、说、谈、听、问、想、歇、修、叙、寻、眨、张、走、坐

上述の“VV”では、ある一部の語に用例が集中していたのに比べて、用例の分布はほぼ均等であり、動詞の種類はバリエーションに富んでいる。会話文での用例が三分の二を占める。例えば、

翟买办道：‘…。今日有缘，遇著王相公，是必费心大笔画一画，…’ (01,07a,04)

危素叹道：‘…。不知老父台可以约他来此相会一会么？’ (01,08a,04)

蒋刑房等他说完了，慢慢提起来，说：‘…。意思要会一会，叙叙苦情。…’ (20,07b,09)

王德道：‘…。我们至亲的也不曾当面别一别，甚是惨然！’ (06,03a,09)

翟买办跪在轿前禀道：‘…。请老爷龙驾到公馆里，略坐一坐，小的再去传。’ (01,11a,06)

想一想，更疼的狠了，连忙问郎中讨了个膏药贴着。(03,16a,08)

又想一想道：…。(14,14a,08)

和尚道：‘美之，你去看一看。’ (04,04b,08)

到家门口，站住脚听一听，里面吵闹的不是贾氏娘子声音，是个浙江人。(24,04a,08)

知县起身向二位道：‘外边有个书办回话，弟去一去就来。’ (04,13b,04)

牛浦被他攒的发昏，又攒倒在一个粪窖子跟前，滚一滚就要滚到粪窖子里面去，只得忍气吞声，

动也不敢动。(23,10a,10)

匡超人道:“…如今设若走一走,传的上边知道,…”(20,08b,05)

王德道:“也罢,我们过去替他说一说罢。”(06,06b,09)

浦墨卿道:“…匡先生,你且说一说。”(17,14b,03)

牛玉圃道:“…说不日就要到扬州,少不的要与雪翁叙一叙。”(23,07a,03)

那人拜罢起来,说道:“…我也奉陪了回去,到店里谈一谈。”(35,01a,08)

马二先生想道:“这是他们请仙判断功名大事,我也进去问一问。”(14,12b,07)

一个年老的幕客牛布衣道:“是汶上县?何不在已取中入学的十几卷内查一查?…”
(07,04a,10)

王胡子道:“后门口张二爷,他那儿子读书,少爷何不叫他考一考?”(32,09a,01)

結果補語“着”を伴なうと見られる例が1例だけ見られる。例えば、

杜少卿正要出去看,那人已走近来,说道:“且不要通姓名,且等我猜一猜着!”(33,04a,05)

《儒》ではこのようになっているが、《増補齊省堂儒林外史》では“着”を削除している。改訂者の基礎方言においては容認されない表現であったもので想像される(注2)。

否定は“不”を伴なう例が1例見られる。例えば、

胡八乱子道:“…其实好酒好肉也不曾吃过一斤,倒整千整百的被人骗了去,眼也不眨一眨。…”(50,03a,07)

“把”字句の述部に用いられる例も見られる。例えば、

因走近前,替他把帽子升一升,又拿他的手来细细看了,…。(16,09a,10)

恶和尚把老和尚的光头捏一捏,把葫芦药酒倒出来吃了一口,…。(39,03a,08)

众人看凤四老爷把右手袖子卷一卷。(52,06a,01)

1.1.4 V了-V

全12例、動詞の種類は9。

——点、惊、看、听、望、问、想、笑、张

会話文の例は1例のみで、大多数が地の文に用いられている。もっぱら状況描写、状況説明として使われ、会話文中の例も、ある人物の行動を第三者に述べる際に描写する必要から用いた言い方である。例えば、

王举人道:“…只见五个青脸的人跳进号来,中间一个,手里拿着一枝大笔,把俺头上点了一点,就跳出去了。…”(02,12b,02)

因取过笔来,在卷子尾上点了一点,做个记认。(03,07a,06)

张乡绅四面将眼睛望了一望,说道:“…”(03,18b,08)

三公子来看了一看:“这仆人却不是我家的!”(09,11a,01)

慎卿没奈何,只得勉强看了一看,吃了两杯茶,起身辞别。(30,09a,07)

敲门问了一问，才知道老邹夫妇两人都接到东庄去了，…。(09,13a,04)

…，马二先生在门外望里张了一张，见几个人围着一张桌子，…。(14,12b,03)

王留歌笑了一笑。(30,13b,05)

杜少卿听了，笑了一笑，记在肚里，就留他在寓处歇。(30,01b,02)

…，鲍廷玺看见他用了许多的银子，心里惊了一惊·暗想：…。(31,01a,04)

杜少卿同武书听了一听，才晓得是人来买绣香囊，…。(41,09a,03)

那胡八乱子想了一想，看看凤四老爹又不是个金刚、巨无霸，怕他怎的？(52,06b,05)

1.1.5 VVO

全69例、動詞の種類は22。

—摆、称、辞、读、和、会、见、接、卷、看、摸、破、瞧、请、说、谈、望、问、谢、叙、
寻、议

全用例中、“看”が32例と、約半数を占める。他に“会”6例、“问”が5例など。全般的に会話文中での使用が多い。

“VOV”との関係から、賓語のタイプを見ると、以下のように整理することができる。

1) 人

表嫂 杜少卿 郭铁笔 郭孝子 季姑爷 老爹 邻居 毛胡子 你 年伯 朋友 聘娘
世兄 他 同行 我 新姑娘 尊公

2) 物

灯 灯笼上的字 房 卷子 款单 诗 书 他的房子 五钱六分重 行李 院、道
这些戏子

3) 事

功名的事 故乡的年岁 广大 行 吉凶 家乡的事 举业 苦情 阔怀 气 事 俗
相公娘的气色 学业

4) 身体部位

膀子上 头上 自己身上

5) 場所

风景 景致 落照 秦淮 山景 土色

6) 補文

儿子灌了园 凤四老爹又不是个金刚、巨无霸 这件事该怎么一个办法 可是你的丈夫
可有发财机会 你笔下可望得进学

後述するように、“VOV”の賓語がすべて人称代詞であるのに対して、“VVO”ではその制約にしばられることがなく、幅広く一般的な賓語の類型が見られる。賓語の構造は「補文」の場合を除いて単純なものが大部分である。例えば、

虞博士道：‘…。我到南京的时候，把几间房子托他住着，他所以来看看我。’(36,13a,09)

大爷道：“…，今日特来望望你。…”（42,13a,08）

因走南京过，想起：“…，是我表弟，何不顺便去看看他？”（44,09a,02）

六老爷…又道：“二爷若是得空，还到细姑娘那里瞧瞧他去。…”（43,03a,04）

话说余大先生葬了父母之后，和二先生商议，要到南京去谢谢杜少卿；…。（46,01a,04）

思量没有主意，只得把新做来的一件见抚院的绸直裰当了两把银子，且到扬州寻季姑爷再处。（28,02a,08）

马二先生问道：“…。还想着家去看看尊公么？”（15,11a,04）

请请邻居，买两石米，所存的这项银子，已是一空。（19,13a,08）

船上那些人道：“…。你睁开驴眼看看灯笼上的字！船是那家的船！”（09,11a,05）

严贡生…指着赵氏说道：“…。我死之后，二位老舅照顾你外甥长大，教他读读书，挣着进个学，…”（05,17a,04）

六老爷在腰里摸出一封低银子，称称五钱六分重，递与王义安，…。（42,04a,08）

六老爷知道了，一直迎到黄泥滩，见面请了安，弟兄也相见了，说说家乡的事。（44,01b,02）

陈木南道：“我今日来和他辞辞行，就要到福建去。”（54,14b,09）

本师姑道：“我不会禳解，我来看看相公娘的气色罢。”（54,05b,06）

邹吉甫叫他的儿子邹二来看，也给他见见广大。（11,07a,02）

韦四太爷两手抹着胡子，哈哈大笑，说道：“…。且请坐下，待我烹起茶来，叙叙阔怀。你到底从那里来？”（33,13a,03）

浦郎道：“我们经纪人家，那里还想甚么应考上京，只是念两句诗破破俗罢了。”（21,02a,05）

…，后来长了胡子，做不得生意，却娶了一个老婆，只望替他接接气。（53,01b,10）

张铁臂道：“…。看看膀子上，白迹也没有一个，…”（12,10a,05）

他吃了一惊，摸摸头上，不见了孝帽子。（12,07b,01）

这一个拍那一个肩头道：“…。回来再到雨花台看看落照。”（29,14a,08）

又过了几日，娘子因初到南京，要到外面去看看景致。（33,07a,03）

马二先生道：“…。寓处盘费已尽，心里纳闷，出来闲走走，要在这仙祠里求个签，问问可有发财机会。…”（15,03a,09）

马二先生笑着向他说：“我如今大胆出个题目，你做一篇，我看看你笔下可望得进学。这个使得么？”（15,12a,03）

黄氏道：“这便是我家的了，你看看可是你的丈夫？”（24,04b,01）

雷太守道：“…。大老爷，你议议这件事该怎么一个办法？”（43,06b,10）

那胡八乱子想了一想，看看凤四老爹又不是个金刚、巨无霸，怕他怎的？（52,06b,05）

金修义…说道：“…。你看看恁般时候尚不曾停当，可不是越发娇嫩了！”（54,01b,01）

老者看看儿子灌了园，也就到茅斋生起火来，煨好了茶，吃着，看那园中的新绿。（55,13a,09）

1.1.6 V-V O

全32例、動詞の種類は18。

——定、对、点、翻、拱、会、举、卷、看、理、摸、捏、试、束、望、整、助、壮
明らかに地の文に用いられるケースが多い。

賓語はいずれも単純な構造になっており、タイプは以下のように整理される。

1) 人

父母 家君

2) 物

点名册 号簿 头巾 衣服 衣帽 衣袖 直裰

3) 事

政教

4) 身体部位

胆 身上 神 手 头 腰

5) 補文

比个中心 访的是些甚么事

動詞は“拱”の例が多い。“拱手”右手で軽く左の拳を覆うようにして握り、胸の高さのところで上下させる礼の形式であり、“VV”の形では現われない。恭しさ、重々しさ、しっかりした様子、じっくりといった感じを表現するには“V-V”型がふさわしいからとも考えられる(注3)。例えば、

点一点头(06,01b,01)(29,08a,08)

定一定神(14,10b,07)

对一对号簿(07,04b,02)

翻一翻点名册((03,05b,03)

拱一拱手(02,02a,09)(02,14b,05)(04,07a,03)(12,03b,06)(17,08a,01)(21,04a,04)(23,08a,09)
(28,09a,05)(39,04b,08)(45,03b,07)

萧云仙垂泪道：“……不知可以拜请老先生同晚生到舍下去会一会家君么？”(39,06a,01)

举一举手(02,11a,04)

卷一卷那油晃晃的衣袖(03,15a,08)

匡超人道：“这个好极。费先生的心，引我去看一看访的是些甚么事。”(19,15b,04)

理一理宝蓝直裰(14,10b,04)

梅玖道：“……正月初一日，我梦见一个在一个极高的山上，天上的日头，不差不错，端端正正掉了下来，压在我头上，惊出一身的汗，醒了摸一摸头，就像还有些热。……”(02,09b,05)

摸一摸头(11,11a,08)

捏一捏他身上(16,01a,08)

试一试比个中心 (39,03a,10)

束一束腰 (12,11a,05)

严贡生道：“……那时有个朋友，同小弟并站着，他把眼望一望老父母，又把眼望一望小弟，悄悄问我：……” (04,10a,09)

整一整衣帽 (04,12a,05)

整一整头巾 (14,10b,04)

整一整衣服 (16,01a,07)

迟衡山道：“……借此大家习学礼乐，成就出些人才，也可以助一助政教。……” (33,15a,08)

壮一壮胆 (03,15a,06)

“试一试”は上掲1例のみであり、「嘗試型」として“试一试V”のようにパターン化するほどの生産性は認められない。

1.1.7 V了-V O

全3例、動詞の種類は2。

——点、歇

3例とも地の文に用いられている。賓語は“头”、“脚”で、いずれも「身体部位」を表わす名詞。

例えば、

两人走到床前，王氏已是不能言语了，把手指着孩子，点了一点头。(05,10b,01)

鲁编修点了一点头，记在心里。(10,07b,04)

马二先生起身出来，因略歇了一歇脚，就又往上走。(14,14a,04)

1.1.8 V O-V

全13例、動詞の種類は11。

——拜、灌、会、救、看、考、耍、望、唬、吓、谢

用例はいずれも会話文中の例。賓語のタイプは「人称代詞」のみ。“他”が10例に対し、“我”が3例。“V-O”とは人称に関わる語を賓語とする点において並行関係にある。例えば、

公孙心里想道：“……何不來拜他一拜？”(13,05b,04)

金有餘道：“……你且去到做工的那里借口開水來灌他一灌。”(03,01a,09)

杜少卿道：“便是請表兄做館的了，不妨就會他一会。”(46,01b,01)

牛浦道：“……我是落難的人，求老爹救我一救！”(23,10b,09)

……只說是：“軍中一個將官，向年在山東相識的，故此來看我一看。”(01,17a,05)

匡超人道：“……本該竟到監里去看他一看，……”(20,08a,04)

范進……自心里想：“……如不進去考他一考，如何甘心？”(03,10b,04)

季葦蕭暗道：“他已經着了魔了，待我且耍他一耍。”(30,05b,08)

金東崖道：“……特來揚州望他一望，……”(29,05a,01)

老太太趕出來叫道：“親家，你只可唬他一唬，却不要把他打傷了！”(03,15a,10)

差人道：‘…。如今只消串出个人来吓他一吓，…’ (29,051,01)

牛浦…，又想到：‘…，且叫他竟到卜家来会我，吓他一吓卜家弟兄两个，有何不可？’
(22,02a,09)

翟买办变了脸道：‘…。论理，见过老爷，还该重重的谢我一谢才是，…’ (01,08b,04)

1. 2 二音節動詞

《儒》における二音節動詞重疊型は全21例。形式は全4タイプである。

VV 16例、VVO 2例、V-V 2例、V-VO 1例

単音節の場合と同じく、“兒”接辞を伴う例は見られない。

“V-VO”型が従来の資料には見られなかった新しいタイプの重疊形式である。単音節動詞の“V-VO”と呼応、連動する関係にあると考えることもできよう。

1.2.1 VV

全16例、動詞の種類は11。

——查点、打探、晃荡、徘徊、襁解、热闹、商议、收拾、相与、游玩、照应
会話文中での用例が大部分を占める。“收拾”が5例と最も多い。例えば、

打探打探(50,02a,03)

徘徊徘徊(47,13b,02)

襁解襁解(54,04b,10)

热闹热闹(19,03b,02)

商议商议(55,09a,09)

收拾收拾(20,05b,09)(25,12b,02)(43,01a,09)(52,10b,02)

游玩游玩(40,07b,03)

照应照应(43,03a,02)

否定詞“不”による修飾を受ける例も見られる。例えば、

金修义道：‘方才说要襁解，何不就请本师父襁解襁解？’ (54,05b,05)

朋友们和他相与的问他道：‘…。何不同些学校里人相与相与？’ (55,12a,10)

介詞“把”、“將”による処置式の述部に現われる例も見られる。例えば、

…，右手把个大布袖子晃荡晃荡，…。(12,07a,03)

黄大道：‘…，公中弄出些银子来，把这房子收拾收拾，赏小的住。’ (32,04a,08)

向知府…，说道：‘诸位先生将房里各样稿案查点查点，务必要查细些，…’ (26,01a,05)

“AABB”式の重ね型も見られる。多くは“AB”型が展開したのもである。例えば、

哭哭啼啼(01,14a,03) (16,11a,02)(20,02b,05) (22,01a,08)(24,08a,09)(27,07a,08)

(31,18b,03) (38,02a,09)

跌跌撞撞，扶了回去。(05,08b,09)

那老六跌跌撞撞，作了个揖，就到厨下去了。(11,11b,03)

又吃了几碗茶，周进再不哭了，同众人说说笑笑回到行里。(03,03b,05)

说说笑笑(34,04b,04) (52,15b,10)

在家哽哽咽咽(05,15b,08)

从此啾啾唧唧(11,03b,03)

呜呜咽咽(29,11a,02)

扭扭捏捏(31,09b,10)

推推搡搡(55,06a,02)

様態性、描写性が強く感じられるところから、状語として用いられる例も見られる。“VV”型(すなわち“ABAB”タイプ)と大きく異なる点である。例えば、

…，看到戏场上小旦装出一个妓者，扭扭捏捏的唱，他就看昏了，…。(10,14b,03)

…，只是想著死的亲家，就要哽哽咽咽的哭。(21,14b,01)

次の“嘴嘴舌舌”はくどくどしゃべるさま。やはり“嘴舌”が基になっているものと考えられるが、旧白話で“嘴舌”は「そしり笑う、あざ笑う」の意(注4)。

“…。若到庄上来，他家那佃户又走过来嘴嘴舌舌，缠个不清。…”(04,03b,03)

1.2.2 V-V

全3例、動詞の種類は2。

——帮衬、权变

用例はいずれも会話文に用いられている。例えば、

报禄的人道：“…，你没奈何权变一权变。”(03,15a,05)

牛浦…说道：“…。这都是大家脸上有光辉的事，须帮衬一帮衬。”(22,02b,09)

1.2.3 VVO

全3例、動詞の種類は3。

——晋谒、盘问、照顾

賓語は「人」に関わる人称代詞と呼称語。《儒》に単音節語、二音節語ともに“VOV”は現われて来ず、“VOV”から“VVO”への移行を窺わせる一端ではないかと考えられる。例えば、

“…晋谒晋谒危老先生。…”(01,04b,09)

“…照顾照顾他。”(36,08a,03)

“…盘间盘问他，…”(41,10a,09)

1.2.4 V-VO

全1例。

——查点

賓語は「物」。二音節動詞におけるこのタイプは、これまでの資料からは検出されていない新しい形式である。例えば、

牛浦望不见老和尚，方才回来，自己查点一查点东西，把老和尚锁房门的锁开了，去了下来，出门反锁了庵门，回家歇宿。(21,12b,02)

1. 3 《增補齊省堂儒林外史》増補部分

《増補齊省堂儒林外史》は清朝光緒14年(1888)の刊。《儒》の刊行とは約80年の隔りがある。言語の面からは更に差異がある(異質な部分を含む)ものと考えられる(注5)。

増補部分は第43回第2葉表14行目後半から、第47回第2葉裏11行目中ほどまでである。今回の調査では、この増補部分についてのみ用例を抽出し、パターンの整理を行った。《儒》とのトータルな対比は別の機会に譲る。

現われるタイプを概観してみることにしたい。

单音節動詞	二音節動詞
V V 12例	V V 3例
V V O 8例	
V 了 V 1例	
V 了 V O 1例	
V 了 - V 1例	
V - V O 1例	

《儒》と異なるのは、1例ずつではあるが“V了V”、“V了VO”が見られる点である。

1.3.1 V V

全12例、動詞の種類は9。

——逛、见、看、送、想、笑、歇、用、坐

坐坐(43,02b,05)

想想(43,02b,08)

用用(43,03b,12)

见见(44,02a,10) (44,02a,16)

送送(44,02b,04)

笑笑(44,02b,05)

走走(44,04a,05)

看看(45,02a,15)

逛逛(46,01a,14) (46,02a,09)

歇歇(46,01b,11)

1.3.2 V了V

全1例。

——笑

《儒》には見られない形式である。例えば、

…，上有国公府徐二公子的批评，笑了笑道：…。(46,02a,16)

1.3.3 VVO

全8例、動詞の種類は6。

——看、评、设、托、问、整

賓語のタイプは、以下のようにまとめることができる。

1) 事

动静 法 老爷太太的福

2) 身体部位

云鬓

3) 二重賓語

同班几句公事

4) 補文

上面摆着一部《洪武正韵》 中间悬一幅吴道子仙笔画的《龟蛇镇宅图》

例えば、

整整云鬓(44,03b,11)

托托老爷太太的福(44,03b,16)

看看上面摆着一部《洪武正韵》(46,01b,13)

看看中间悬一幅吴道子仙笔画的《龟蛇镇宅图》(46,02a,05)

评评他们的诗(46,02a,14)

试试动静(47,01a,06)

设设法(47,01a,10)

二重賓語を取る動詞が重ね型を形成する例は希である。例えば、

抚院已不愿意听他分辨，转回问问同班几句公事的话，拱手送客。(47,02a,08)

1.3.4 V了VO

全1例。

——点

琼枝伏地听着，不觉点了点头。(46,03a,16)

1.3.5 V了—V

全1例。

——拂

…、回转身来向琼枝笑笑，拂了一拂。(44,02b,05)

1.3.6 V—VO

全1例。

——袞

袞一袞衽，跪下地去叩头。(44,02a,05)

1.3.7 二音節動詞

全3例。

——观瞻 见识 养息

“VV”型のみ現われる。用例はいずれも会話文中で用いられている。例えば、

见识见识(44,03b,14)

养息养息(44,04a,07)

观瞻观瞻(45,04a,15)

2. 《照世杯》

《照世杯》(以下《照》と略称)は著者、刊行年ともに明らかではないため、用いられている言語の基礎方言がどこの方言に基づくのか特定することが困難である。テキストの刊行は原刊が順治年間であり、重刊が康熙年間と推定されていることから、時代区分からいえば、概ね清代初期の言語状況を反映しているものと考えられる(注6)。

小稿では中華書局《古本小説叢刊》第18輯第2冊所収《照世杯》をテキストとして用いる。なお、用例の句読は、上海古籍出版社1985年刊《照世杯》に拠る。

2.1 単音節動詞

《照》における単音節動詞の重畳型は“V—V”が優勢である点に特徴を見出すことができる。

VV 4例、VVO 1例、V—V 32例、V了—V 3例、V—VO 26例

VV 5 : V(了)—V(O) 61

通時的に見れば《元曲選》を境に“VV”型が優勢になるが、《照》は《元曲選》以前の傾向を反映していることになる。

2.1.1 VV

全4例、動詞の種類は2。

——看、走

“V—V”とは比べものにならないくらいに用例数が極端に少ない。例えば、

上岸去走走(第821頁,第8行)

时常看看 (864,1)

自家看看 (894,2)

去走走 (960,7)

2.1.2 VVO

全1例。

——看

賓語は身体部位を指す語。例えば、

…，上半截好像雨淋鸡，看看下半截。…。(894,2)

2.1.3 V-V

全32例、動詞の種類は19。

——稟、荡、兑、裹、候、幌、看、热、认、睡、算、听、望、戏、想、笑、歇、咬、照

“VV”に対して、動詞のバリエーションが豊富であり、生産性を有することがうかがわれる。例えば、

阮江兰冷笑一笑。…。(700,6)

…，要他笑一笑。…。(836,6)

…，在阮江兰面前略幌一幌。…。(723,2)

…，也看见一件东西在眼中幌一幌。…。(837,8)

众位相公思想一想。…。(737,4)

杜景山想一想。…。(878,5)

碗娘想一想道。…。(745,4)

老鸨听一听。…。(744,1)

…，四面照一照。…。(792,6)

…，便放在天平上兑一兑。…。(800,3)

“…，娘子请看一看。”(807,1)

“这也作怪，待我且看一看。”(886,3)

他便将汗巾裹一裹，掷向楼上去。…。(837,6)

…，只得立在房檐下歇一歇。(842,4)

…，将水荡一荡。…。(842,6)

“…，拼着去稟一稟。…”(858,4)

“…，还去热一热。”(878,8)

四下望一望。…。(880,7)

“我且在这里睡一睡。…”(885,7)

“你戏一戏，把与这客长罢。”(895,5)

杜景山认一认道：…。(896,7)

杜景山再仔细认一认, …。(897,2)

“…。你在这衙门前略候一候, …。”(906,2)

训蒙先将笔头在嘴里咬一咬, …。(927,3)

一日, 将拈过的筹码算一算, …。(947,5)

2.1.4 V了-V

全3例、動詞の種類は2。

——认、笑

用例はいずれも地の文。例えば、

小厮笑了一笑, 竟自持去。(722,2)

阮江兰认了一认, 才知道是乐多闻。(737,8)

欧滁山认了一认道: …。(822,2)

2.1.5 V-V O

全26例、動詞の種類は22。

——查、尝、点、动、抖、换、结、解、举、亮、披、热、揉、人、塞、算、通、推、应、
斋、拽、转

賓語のタイプは以下のようにまとめることができる。

1) 物

筹码 门 土地 物 行囊 衣服 衣袖 银子

2) 事

故事 火性 线索 滋味

3) 身体部位

口 身 手 睡眼 头 眼

「人」を表わす人称代詞、呼称などの語が賓語の位置に現われる例は見られない。《儒》と比較すると、賓語のタイプは範囲が狭い。例えば、

…。揉一揉眼, …。(709,2)

…。轻轻拽一拽衣袖。(722,4)

…。推一推门, …。(725,7)

…。没奈何也要回头熬一熬火性。(732,4)

…。热一热老鸩的手, …。(735,8)

…。亮一亮老鸩的眼, …。(736,1)

…。塞一塞老鸩的口。(736,1)

老鸩转一转身, …。(745,7)

…。秋星解一解衣服, …。(747,4)

…。查一查银子, …。(792,3)

各自揉一揉睡眠。 …。(794,6)
…、点一点头道： …。(803,4)
…、想着要人一人眼。(806,7)
欧滁山抖一抖衣服。 …。(819,2)
…、披一披行囊。 …。(865,1)
“我们略尝一尝酒的滋味，不要吃醉了。”(871,3)
揉一揉双眼。 …。(880,4)
杜景山点一点头道： …。(884,6)
…、不过拿他玉马换一换物。 …。(910,2)
…、隐着身体在门内应一应故事。 …。(968,6)
“…、好待我尝一尝滋味。”(975,1)
“你们且住手，待我结一结帐，算一算筹码。”(993,4)
“…、只消举一举手，动一动口。 …。”(994,7)
“我们该斋一斋土地。”(999,4)
“…、如今且去通一通线索，再做主意。”(1006,2)
苗舜格假意转一转身。 …。(1006,3)

2. 2 二音節動詞

特筆すべきは全3例のうち、1例が“VO-V”型である点。このタイプは明代の資料に見られる(大島2003参照)。

2.2.1 V-V

全2例。動詞の種類は2。

——款待、探望

例えば、

“…、务必到俺家来探望一探望。 …。”(901,3)

“…、也该备些素饭粉汤款待一款待。 …。”(939,6)

2.2.2 VO-V

全1例。

——难为

賓語は人称代詞“他”。例えば、

“…、难为他一难为。 …。”(855,2)

3. おわりに

小稿で検討した資料に見られる用例を一覧表に整理にてみることにする。

		《照》	《儒》	《增》
単 音 節	VV	5	167	12
	V了V	0	0	1
	VVO	0	69	8
	V了VO	0	0	1
	V-V	32	53	0
	V了-V	3	12	1
	V-VO	26	32	1
	V了-VO	0	3	0
	VO-V	0	13	0
計		63	349	24
二 音 節	VV	0	16	3
	VVO	2	2	0
	V-V	0	2	0
	V-VO	0	0	0
	VO-V	1	0	0
計		3	21	3

これまでに検討を行ってきた資料からは、様々なタイプの重畳形式が見られたが、清代乾隆、嘉慶年間の資料になるとバリエーションが少なくなり、《儒》においては現代漢語への傾斜をうかがわせる。清代には、これら以外にも《紅樓夢》、《兒女英雄傳》をはじめとして多くの言語資料が残されている。資料性を吟味しながら詳細な記述を行い、総合的に動詞重畳型の分析を進める意味があるものとする。

(2003.9.25)

注

- (1) 拙稿 1999 (p.217) 参照。老舍《駱駝祥子》、《離婚》の用例について整理してある。
- (2) 上海古籍出版社刊《儒林外史》第三十三回校記 (p.462) には、申報館第一次排印本、同じく第二次排印本では“看”に作るとの校勘記がある。校訂者にとって結果補語“着”の用法

が奇異に感じられ、嘗試を表わす“看”に書き改められたものと想像される。《姻》に“VV着”の例が見えることは拙稿 2002 (p.206) を参照されたい。

- (3) 邢福義 2000 (p.428) 参照。「鄭重式」という表現を使っている。
- (4) 角川書店 1994 年刊大東文化大学中国語大辞典編纂室編『中国語大辞典』(p.4159) による。
- (5) 《増補齊省堂儒林外史》の言語については拙稿 1999b (p.1～p.15) を参照されたい。
- (6) 中華書局《古本小説叢刊》第 18 輯第 1 冊「前言」(p.4) 参照。

参考文献

- 徐 連祥 2002. 「動詞重疊式 V V 与 V—V 的語用差別」、《中国語文》2002 年第 2 期 (總第 287 期)。
- 邢 福義 2000. 「説“V—V”」、《中国語文》2000 年第 5 期 (總第 278 期)。
- 張 崇・劉繼超 2002. 「現代漢語的 V V 与近代漢語的 V—V」、『中国語研究』第 43 号。
- 大塚秀高 1987. 『増補中国通俗小説書目』、汲古書院。
- 大島吉郎 1999a. 「動詞重疊型に関する通時的研究 (一) ——《水滸傳》を中心に」、『大東文化大学紀要』第 37 号。
- 1999b. 「《儒林外史》増補部分について」、大東文化大学語学教育研究所『語学教育フォーラム』第 3 号。
- 2000. 「動詞重疊型に関する通時的研究 (二) ——《元曲選》を中心に」、『大東文化大学紀要』第 38 号。
- 2001. 「動詞重疊型に関する通時的研究 (三) ——《西遊記》を中心に」、『大東文化大学紀要』第 39 号。
- 2002. 「動詞重疊型に関する通時的研究 (四) ——《金瓶梅詞話》を中心に」、『大東文化大学紀要』第 40 号。
- 2003. 「動詞重疊型に関する通時的研究 (五) ——《醒世姻縁傳》を中心に」、『大東文化大学紀要』第 41 号。

引用書目

- 《儒林外史》(全四冊)、人民文学出版社 1975 年刊。
- 《儒林外史》(上・下)、李汉秋辑校、上海古籍出版社 1984 年刊。
- 《増補齊省堂儒林外史》、中国书店 1988 年刊。
- 《照世杯》、《古本小説叢刊》第 18 輯第 2 冊所收、中華書局刊。
- 《照世杯》、上海古籍出版社 1985 年刊。